

雷雨の中のカキ殻拾い



きつい作業でした。でも楽しかったですね。

中島市長のご挨拶



早朝からのカキ殻拾いにも参加していただきました。

地域の方々によるカキ殻リレー



「ホイサ、ホイサ」の掛け声も出てみんな楽しそうでした。

森田先生のカキ殻効能の説明



森田先生のわかりやすい説明に参加されていた地域の方々や子どもたちもうなずきながら聞いていらっしゃいました。

子どもたちによるカキ殻の袋詰め



たくさん子どもたちが参加。みんな楽しそうにカキ殻の袋詰めにチャレンジしていました。

8/24(土)
投入作戦
決行!!

カキ殻を川にまく

カキ殻の敷き詰め作業



この日は雨で増水して流れも急なため、敷き詰め作業もたいへんでした。

河川に敷き詰められたカキ殻



左の写真が設置個所の上部。右の写真が下部。数日後、下部の水がきれいになっているのが確認できました。

マスコミによる紹介(熊本日日新聞)



カキ殻を使って河川を浄化しようと、八代市の市民団体「次世代のためにがんばる会」が二十四日、同市上野町の用水路にカキ殻3トンをまいた。趣旨に賛同した中島隆利市長も早朝から参加した。同会は三月、同市古麓町の新川に約二トンのカキ殻をまき、五月に水質などを調査。その結果、カキ殻をまいた場所では水の汚れ具合を示すCOD(化学的酸素要求量)値が一・二ppmで、まいていない上流部の七・五ppmより低下していた。また、新川(川幅五・八メートル)を長さ一メートルに区切ってカワニナの数を調べたところ、カキ殻をまいた地点では四百二十五個で、同じ面積で百五十三個だった上流部より多く、水がきれいになったとしている。水質調査した八代高専生物工学科の塩澤正三教授と北九州市立大環境化学プロセス工学科の森田洋講師によると、カキ殻の成分の炭酸カルシウムが、水質汚濁の原因となる水中

のリンと結合して沈殿し、カルシウムに集まる貝類が水を浄化することなどが理由という。同日は、会員や地域の小学生ら約六十人が参加。同市二見の八代海で採取したカキ殻をネットに詰めて、用水路に沈めていた。定期的な水質調査をする。中島市長は「親子で取り組める市民運動として、市全体に広がっていくようバックアップしたい」と話した。

(熊本日日新聞・平成十四年八月二十五日記載)

次世代のためにがんばる会の概要

八代地域の住民が集まり、現在汚染や破壊が進んでいる自然環境を改善して、自然環境の尊さについて次世代を担う子供達に伝えていくというのが、本市民団体の主旨です。月一回で理事会、定例会をそれぞれ開催し、八代の環境を良くする運動、それを子供達に伝える運動を進めています。

次世代のためにがんばる会の顧問の先生方

次世代のためにがんばる会 顧問 森田 洋先生

「略歴」1970年名古屋市生まれ、1999年九州大学大学院農学研究科博士課程修了、農学博士(九州大学)。同年、八代工業高等専門学校生物工学科助手に着任、2001年より北九州市立大学国際環境工学部環境化学プロセス工学科物質循環講座講師に就任、現在に至る。

専門分野;生物資源工学, 食品工学, 応用微生物学

主な研究課題;イグサの新規用途開発に関する研究, 畜産・農産廃棄物の消滅型バイオ処理に関する研究, 高菜の機能性に関する研究, 糸状菌による酵素生産に関する研究, 炭化FRPの高度利用に関する研究。

八代を昔のように美しい環境に取り戻し、それを次世代の子供達に伝えてゆくという本会のすばらしいコンセプトを知り、是非ともサポートさせていただきたいと思い参加しております。名古屋、奈良、アメリカ、福岡、八代、北九州と各地を転々としており、八代には1999年より2年間住んでいましたが、水も美味しく、自然や農作物も豊かで本当に住み良い街でした。是非とも八代の皆さんと一緒にこの資源豊かな街「八代」を守り、それを次世代の子供達に橋渡ししたいと思っています。本会以外ではイグサの研究も精力的に取り組んでいます。

次世代のためにがんばる会 顧問 塩澤 正三先生

「略歴」1942年生まれ、九州大学大学院工学研究科修士課程修了、工学博士(京都大学)。ユニチカ㈱に25年勤務後、現職の八代高専生物工学科教授に就任。

専門分野;化学工学、生物化学工学、分離工学、酵素工学。手がけた主な技術;生物関連物質の分離精製、バイオリアクター、活性汚泥法廃水処理、工場排ガスからの有害物質の除去、ガラス繊維複合材料、エレクトロニクス用プラスチック、ナイロン、レーヨンなどの、基礎研究、開発研究から設備建設、操業まで。

保有資格;公害防止管理者(水質3種、大気1種、騒音)、甲種危険物取扱者、衛生管理者、二級建築士

趣味;魚釣り、庭いじり、生き物を飼うこと、山歩き

小学校入学から大学院修了までを福岡で過ごしました。子供の頃は山遊びや川での魚とり、博多湾での貝とりや海水浴が日課でした。自然が豊かな八代に来て、子供の頃を思い出します。その豊かな自然を維持し、よりきれいにし、またその思想までふくめて、後世に伝えようとの会員の皆様の熱い思いと実行力に感動し、お役に立てればと思い、一緒に行動させていただいております。

会員のひとこと～[カキ殻で八代の水環境をきれいにしよう！]を終えて・・・

会員 百武 末子さん

前夜からの雷雨が降り止まぬ8月24日早朝の二見漁港での牡蠣殻収集、その後のイベント会場でも雨の中、多数の地域の小学生親子が集まってくれました。トラックから川に投入する間、リレー式の作業に子供達もしっかりがんばってくれました。

共に多数でやれば手作業も楽しみながらやれると確信しました。所詮家庭排水で汚染されている川です。その一軒一軒が少しでも排水に気を付けてくれれば川もきっと綺麗になるはずです。市民一人の考えがこの活動により環境に対する意識をもって欲しいと更なる努力を決意させられました。

会員 江口 亨さん

カキ殻拾いに河川への投入。日頃運動不足の私にはかなりの重労働でした。

学生時代に環境科学を専攻した私にとって、「身近な環境ボランティア」への参加は1つの夢でもあり、まさに今回の活動は、その第一歩となりました。立場や身分を越えた官学民一体のこの活動に地域ボランティアのあり方を学び、また、新しい出会いを通してたくさんの方々からパワーをいただき、心から感謝しています。これからもこの活動を通していろんなことを学びんでいきたいです。

会員 浜田 律子さん

雷雨の中、早朝 二見漁港にメンバー集合。一時は二見駅へ避難し、市長の

「もうすぐ止みますよ。」の言葉に力付けられ、牡蠣殻を袋へ詰め込み、2t車と軽トラックに載せ目的地の上野町へ。現地では地域の方々の多数参加ではあるが作業はできるのだろうか?と不安そう。開会式中島市長のご挨拶、森田先生や塩澤先生の牡蠣殻の効能や水質検査結果の説明で関心を持っていただく。その後子供達に網袋に牡蠣殻を詰め込ませ、町内会長の白石氏の「ホイサ・ホイサ」の掛け声でずぶ濡れになりながら親子共々流れ作業で牡蠣殻の敷き込み完了。参加者の感想では「これからの川の浄化が楽しみね」との事。又、早朝作業後のおにぎりとい草団子の美味しかった事。色々な方との出会いで次世代の会が一段と大きくなったように思う。今回の力強い応援団の中島市長・森田先生・塩澤先生に感謝し、これからも色々な面でご助言をお願いしたい。皆さん有難う!!

編集後記

「カキ殻で八代の水環境をきれいにしよう」の河川浄化実施の日は誰のせいかわからない悪状況でしたが、たくさんの方々の協力で無事終えることが出来たことを感謝申し上げます。

八代市内の全ての川にカキ殻を撒き昔のようなきれいなせせらぎを取り戻すことができますように……。